

平成 16 年 5 月 19 日

熊本県

第 9 回有明海・八代海総合調査評価委員会会議資料

調査研究報告事項

アサリの資源管理に関する研究について

## 熊本県におけるアサリ資源管理に関する研究



緑川河口域でのアサリ漁獲状況

熊本県水産研究センター

## 有明海熊本県沿岸の主要漁場



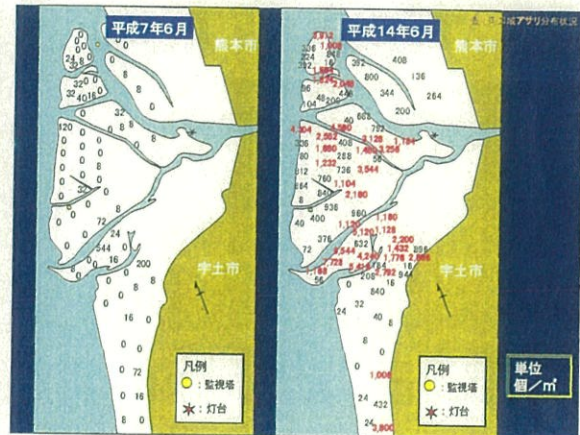
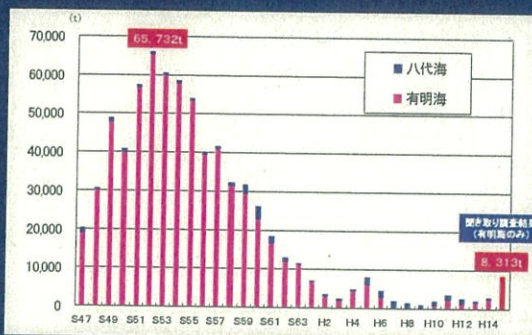
荒尾地先  
・3漁協が利用  
・最大漁獲量7,459トン(S53)

菊池川河口域  
・4漁協が利用  
・最大漁獲量14,459トン(S52)

白川河口域  
・4漁協が利用  
・最大漁獲量5,206トン(S49)

緑川河口域  
・5漁協が利用  
・最大漁獲量42,010トン(S52)

## 熊本県におけるアサリ漁獲量の推移



## なぜアサリが増えたのか？



● アサリを増やすための様々な取り組み

● アサリ浮遊幼生の発生状況から

2003.4.14  
網田漁協荷さばき所にて

## アサリ復活を目指して！ (漁協・漁業者の取り組み)

- 1 資源管理の推進  
・漁獲サイズ、漁獲量、漁獲時期の制限
- 2 アサリ増殖対策の実施
- 3 食害生物の除去



### 保護ネット張り



- 拡散防止、害敵対策、稚貝着底促進等様々な効果を期待して設置

### 着底促進施設(竹柵)設置



- 流れを阻害することにより稚貝着底を促進

### 熊本県における害敵生物による被害

- エイ類  
- トビエイ類



ナルトビエイ



ツメタガイ



卵

- 貝類

- ツメタガイ、キセワタガイ



キセワタガイ

- 鳥類

- カモ類

現在、資源状態が悪い影響が大きい  
当面の害敵として、駆除作業が行われている

### ナルトビエイ飼育結果から

体盤幅約50cm、体重約2kgのエイを1尾飼育

毎日1kgのアサリを食べた(殻付き重量)。



エイが食べた貝類

- ・アサリ
- ・ハマグリ
- ・シオフキ
- ・カキ
- ・サルボウ
- ・ムラサキガイ
- ・ツメタガイ

最終的には水温15度前後でへい死

冬場はどこにいくのか?



天草町の定置網にかかったエイ  
・体盤幅120cm  
・12月～4月に獲れる

### ナルトビエイ対策 事例1



- 2001.7.27 熊本市松尾漁協(白川河口域)が実施
- 囲い刺し網を使用
- ナルトビエイ 170尾/日捕獲

### ナルトビエイ対策 事例2



- エイ類の食害を防止するため、ネットで漁場全体を囲んである。(横島漁協)



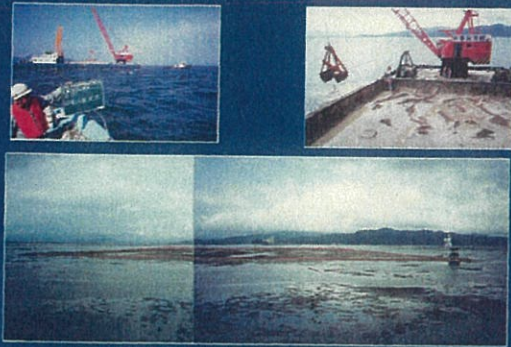
## アサリ復活を目指して！ (県・市町の取り組み)

### 1 アサリ漁場の造成

- ・覆砂
- ・作澤
- ・耕耘

### 2 食害生物の除去

## 覆砂事業



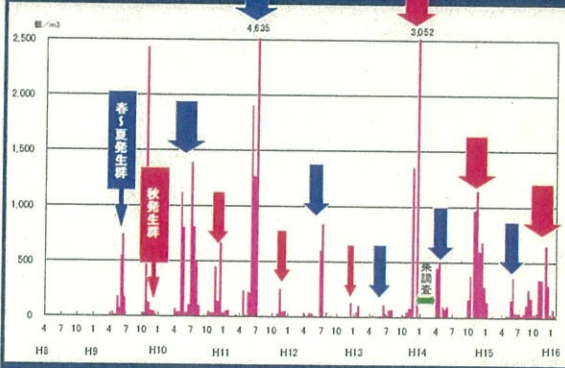
●平成7年度 緑川河口での実施例

## 干潟の耕うん

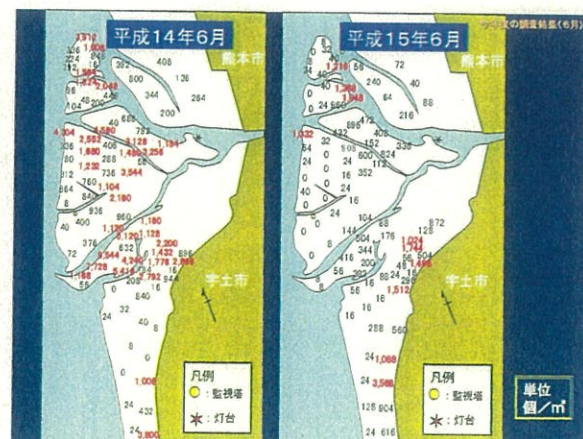


- 浮泥の堆積、硬化等悪化した底質の改善、ホトギスガイのマット、アナジャコ駆除等を目的に実施

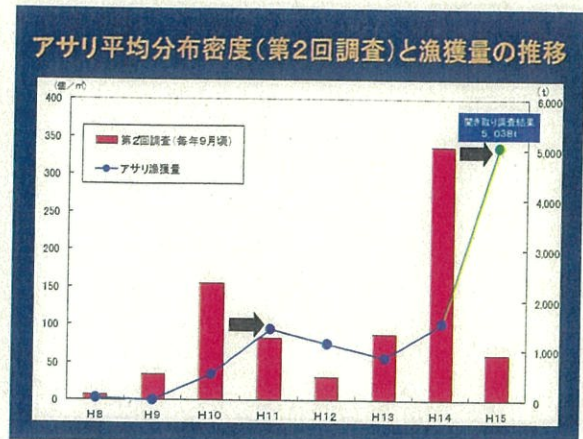
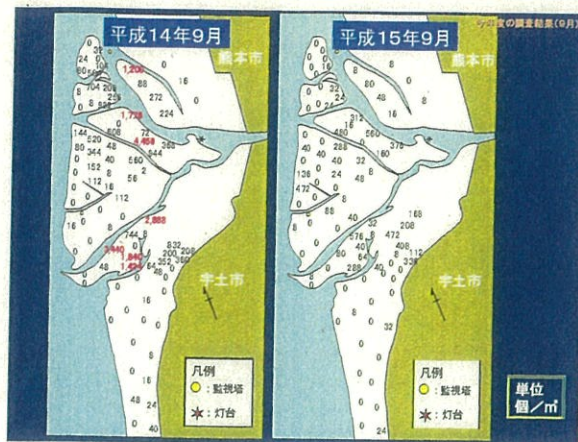
## 緑川河口域におけるアサリ浮遊幼生の発生状況



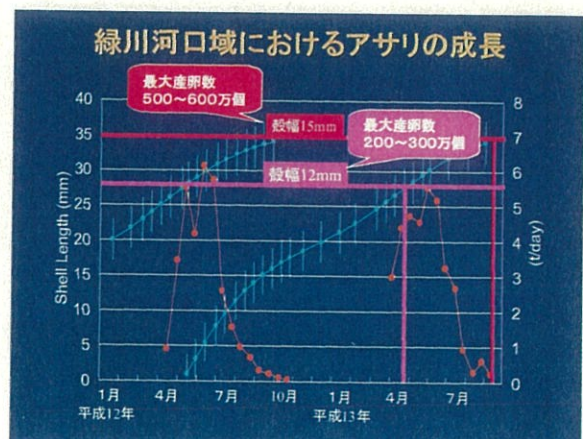
## 今年は？







- 各生産地単位で早急に取り組むべき課題
- 1 漁獲サイズの大型化  
殻幅12mm → 殻幅13mm → 殻幅15mm
  - 2 漁獲量制限  
1ネットの量(12~13.5kg) → 12kg  
ネット制限の統一
  - 3 操業時期  
1潮の操業日数の統一 → 休漁期間の設置  
3~5月及び10~11月
  - 4 アサリ保護区の設定 → 各産地で1地区



### まとめ

- 有明海熊本沿岸のアサリ資源は、現在増加傾向にある。
- アサリが増えた要因として、
  - ① 関係者のアサリを増やすための様々な取り組みの成果
  - ② アサリ浮遊幼生の発生状況の変化等が考えられる。
- 今後アサリ資源を増やすためには、広域的な資源管理の推進が必要である。